

# 新久委員配布資料



## 埼玉の将来構想の実現をめざして

一聞こえない子どもから高齢者まで生涯を誇りを持って生きるために一

聴覚障害児・者の暮らしを支援し、聴覚障害福祉向上のためにたくさんの賛同者を求めています。

あなたも  
後援会へ

### 1. 地域支援

#### ①ろう重複障害者・ろう高齢者の集う場、生活の場、働く場づくり

- ・県南 通所施設
- ・県北 通所施設とグループホーム
- ・県東 通所施設とグループホーム
- ・県西 第2どんぐりホーム（ろう重複者向け）  
第3どんぐりホーム（盲ろう者向け）

#### ②ろう高齢者の相談支援、生活支援

ろう高齢者が安心して家で暮らし続けるために、手話のできるケアマネージャーが相談にのり、ケアプランを作成、サービス調整をする居宅介護支援事業所。

#### ③ろうのヘルパー、または手話のできるホームヘルパーの派遣

### 2. 聴覚障害児支援

聞こえない子ども達のアイデンティティを育むために

#### ①放課後等デイサービス

聞こえない子ども達の放課後や長期休み中の居場所づくり、遊ぶ場づくり。

- ・大宮ろう学園と坂戸ろう学園の近くに、ろう重複障害児デイサービスを含む。

#### ②ろう重複障害児の移動支援

事情でろう学校まで送迎ができない親のために通学等の同行支援。

#### ③支援箱等での情報保障

- ・聴覚障害児向け要約筆記・手話通訳を。

### 3. 就労支援

働くことで悩みや困ったことはありませんか？

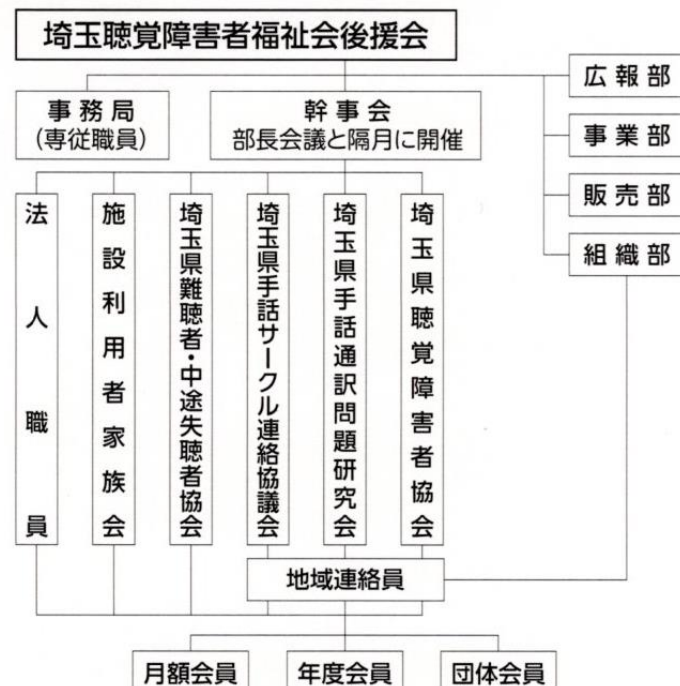
#### ①ワークライフ支援事業

- ・仕事がなかなか見つからない
- ・職場でのコミュニケーションや情報が少なく困っている。
- ・職場での人間関係がうまくいかない…などそんな悩みを解決するために、手話のできる就労相談員がお手伝いする「ワークライフ支援事業」。

#### ②ジョブコーチ事業

聴覚障害者がスムーズに職場に適應できるように支援する、手話のできる「ジョブコーチ事業」。

## 埼玉聴覚障害者福祉会後援会の組織図



それぞれの部会で、月に一度の会議を開いています。組織部は、地域連絡員も参加しています。

- ◇月額会員－毎月定額の会費を納めている会員。
- ◇年度会員－4月～翌年3月までの期間内で3,000円以上の会費を納めている会員。
- ◇団体会員－1年間で10,000円以上の会費を納めている団体（聴覚障害者協会：支会、埼玉県手話通訳問題研究会：地域班、手話サークル、企業等）

## 後援会の目的

法人の財政的な援助を行うとともに、聴覚障害者に対する理解を社会に広めること。

### 後援会の活動はどんなこと？

後援会は、法人の行う事業を財政的に支えるとともに、地域からのニーズに応じた新たな事業の実現にむけて以下のような活動をしています。

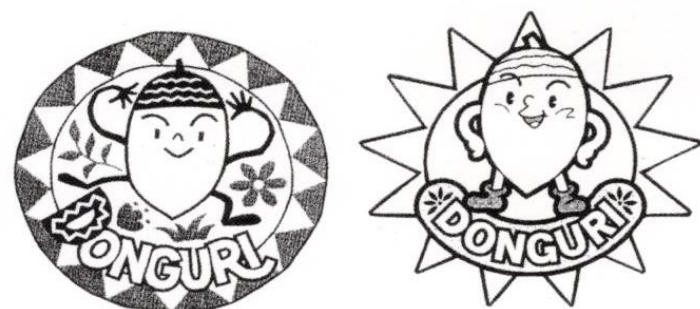
- 後援会員を増やす活動(組織部)  
法人の「応援団」である後援会員を増やす活動をしています。  
組織部と地域連絡員を中心として、各支会、手話サークルなどの会員だけでなく、一般の市民の方にも広く呼びかけて、一人でも多くの方に後援会員(聴覚障害者福祉への理解者)になっていただきたいと思っています。

- バザー・イベントの開催(事業部)  
「どんぐり大バザー」をはじめ、地域の行事での委託販売や聞こえない人も楽しめるイベントの開催を通して、聞こえない人、重複の人と市民の方々との交流を図りながら収益を目指しています。
- 販売事業(販売部)  
夏、冬の年2回のきょうされんが取りまとめるユニオン販売や後援会グッズ・産地直送果実などの販売を行っています。

- ニュース(SSC どんぐり)の発行(広報部)  
法人・各事業所・後援会に関する情報、国の福祉の動向、埼玉の聴覚障害者福祉、教育に関する情報などを掲載。毎月1回発行しています。
- 学習会の開催など(事務局)  
聴覚障害を持つ人たちの抱える問題や、その時々を情勢を多くの方に知ってもらうため学習会などに取り組んでいます。  
例)聞こえない障害及び手話の普及など。



## 後援会の結成まで



## 「どんぐりの会」 重複学級卒業生に働く場を!

1985年(昭和60年)、坂戸・大宮ろう学校の  
重複学級生徒の親と教師で「どんぐりの会」を  
結成し、子どもたちの卒業後に働ける場所  
(共同作業所)づくりを始めました。



山本おさむ著「どんぐりの家」第一巻より

## 後援会の設立

1994年(平成6年)9月、「ふれあいの里・どんぐりを作  
る会」は、施設の運営を「社会福祉法人埼玉聴覚障害者福  
祉会」に委ね、法人の財政的支援を行い、聴覚障害者福祉  
向上のための活動を担う「社会福祉法人埼玉聴覚障害者  
福祉会後援会」という組織になりました。

1996年(平成8年)1月、2億円募金活動の末、ようやく  
「ふれあいの里・どんぐり」を開所することができました。

## 「ふれあいの里・どんぐり」を建てよう!

その後、家族が高齢化しても、家族に代わって  
安心して暮らせる施設づくりが次の課題とな  
りました。



山本おさむ著「どんぐりの家」第一巻より



山本おさむ著「どんぐりの家」第六巻より

## 「ふれあいの里・どんぐりを作る会」始動

1991年(平成3年)、ろう重複者の生活施設  
をつくるために埼玉県ろうあ協会(当時)、  
埼玉県手話通訳問題研究会、どんぐりの会、  
県内の手話サークル、ろう学校PTA、労働組合  
など40団体で2億円の建設資金を集める募金  
活動に取り組み始めました。



山本おさむ著「どんぐりの家」第一巻より

## 「どんぐりの家」開所

2年間で600万円の資金を集めて、関東で  
初めてのろう重複者の共同作業所『どんぐり  
の家』が旧大宮市三条町に開所しました。



1986～1989年 旧大宮市三条町  
共同作業所「どんぐりの家」(無認可)

## 「大宮どんぐりの家」開所

1989年(平成元年)、旧大宮市三条町から  
中釘に引っ越し、「大宮どんぐりの家」となりま  
した。



1989～1996年 旧大宮市中釘  
共同作業所「大宮どんぐりの家」(無認可)